

「虹の湖」名称由来

大野ダム貯水池の名称は、大牧町長(当時)を審査長に、青年団、婦人会、公民館などの代表者十人が審査員となり、応募名百四十五の中から選び、三回目の投票で①美山峡 ②虹の湖 ③桃源峡の三つにしぼり、最後に「虹の湖」が当選した。

この名称は、先に近畿地建が作った「向山橋」など七つの橋(七色の橋)にちなみ”虹”の字を取り入れることがふさわしい。さらに人生には夢がある。ニジは夢の架け橋という意味合いから「虹の湖」となったらしい。

応募名には、「一度はおいで大野湖」などに類するくだけたものもあり、また、「丹波琵琶湖」、「竜宮湖」、「平和湖」など、かなりふるった名前も見られたとある。

また、時代を反映してか「美山ライン」「レインボー」などの外国語をとりあげてきたものもあって、審査員たちを感心させたり、失笑させたりのコマもあったそうだ。

洪水調節、電源開発、観光資源の三つをかね合わせた大野ダム地域の将来に期待したいと記載されていた。(当時のある新聞の紙面より)

